

平成27年度

第2回中央区環境行動計画推進委員会

日 時 平成28年1月27日（水）14:00～16:00

場 所 中央区立環境情報センター研修室

【議事の概要】

議題（1）中央区環境行動計画事業等の推進状況

委員からの意見等

※事業全体について

- 1 全体的な進捗状況はどうか。
- 2 取組みが進まない事業などを具体的に説明してほしい。
- 3 全体像が把握できるような資料にできないか。
- 4 体系的に整理したほうが、課題もはっきり見えてくると思う。
- 5 別の観点から整理すると、新たな課題が見えるかもしれない。次年度は、これまでの形式を改め、課題と方向性が見える資料をお願いしたい。

※古紙持去りについて

- 6 GPS 調査は実施したか。
- 7 同一事業者の常習的な行為のようだが、公表より厳しい罰則はないのか。
- 8 実施効果はあるか。

区の回答

- 1 概ね順調と言えるが、なかなか取組みが進まない事業もある。
- 2 中央エコアクト（事業所向け）は、認証件数が伸びず、目標には程遠い状況である。また、区民・事業者等の連携による環境活動の拠点として、環境情報センターをさらに活性化させていく必要がある。
- 3 各事業の実績を積み上げてきたため、全体像がわかりにくくなっている。「地球環境」「都市環境」などの項目ごとに課題整理を行い、総括的に把握できるような資料に改めていく。
- 4 これらの項目とは別に、「重点プロジェクト」（CO2削減、ヒートアイランド緩和、区民・事業者等との連携）という体系もあるので、こうした観点から整理していく方法もある。
- 5 資料の形式を改める。

- 6 昨年3月に続き、11月2日に実施したが、同一事業者による買入れが判明したため、関東製紙原料直納商工組合（以下「組合」という）が警告を発し、事業者名を公表している。
- 7 組合の規定にはない。区の条例・規則も同様である。
- 8 調査以外にも、定期的なパトロールを強化しており、古紙回収量も増えてきているので、一定の効果はあると考えている。

議題（2）中央区コミュニティサイクル事業実証実験の利用実績

委員からの意見等

- 1 資料中「回転数」とあるが、「利用回数／日数・台数」と補足説明を加えたほうがわかりやすい。
- 2 寒い時期は利用者が減るが、もう少し暖かくなれば、増えてくるだろう。
- 3 海外での利用状況はどうか。運営事業者を確認しておいてほしい。
- 4 観光地巡りなどで利用できると便利だ。
- 5 道路整備は行っていくのか。
- 6 サイクルポートは、一般の駐輪場としても利用できるか。
- 7 今後もサイクルポートの整備は必要なので、具体的な方針等を整理しておいてほしい。

区の回答

- 1 次回から加える。
- 2 そのように見込んでいる。
- 3 ニューヨーク、ロンドンなどの例があるが、詳細は把握していないので、次回までに確認しておく。
- 4 4区（中央、千代田、港、江東）相互乗入れ実験が2月1日から4月30日まで実施されるので、より多くの方が利用できるよう、利便性の向上を図っていく。
- 5 東京都が自転車推奨ルートの整備方針を定め、銀座、浅草などの観光地やオリンピック会場周辺などをネットワーク化していく予定である。
- 6 コミュニティサイクル専用である。
- 7 次回までに整理しておく。

議題（3）環境情報センター利用等の実績

委員からの意見等

- 1 1,000人以上来館しているイベントもあり、全体的に好調のようである。

- 2 次年度の目標をどう考えるか。

区の回答

- 1 開設以降、特に企業とのつながりが増えてきたためと思われる。
- 2 今年度の実績を踏まえ、どう充実させていくか検討していく。

議題（４）中央区の森環境ふれあい村構想の取組

委員からの意見等

- 1 広葉樹の生育によるCO2吸収量は試算しているか。
- 2 自然環境調査は、積極的に区民の意見を取り入れてほしい。
- 3 檜原村との交流は盛んか。
- 4 他区の取組状況はどうか。
- 5 寄付はどのくらい集まるか。
- 6 学校の年間行事に組み込み、親子体験ツアーに参加してもらうのはどうか。

区の回答

- 1 試算はしていない。ホームページに生育状況を掲載する予定である。
- 2 区民の意見を集約のうえ、調査方法を検討していく。
- 3 区民による「中央区森の応援団」と協働した体験ツアーを実施し、地元の観光協会との交流を図っている。
- 4 例えば、港区とあきるの市、新宿区と長野県伊那市、群馬県沼田市、品川区と山梨県早川町などがあるが、最初に始めたのは中央区である。
- 5 現時点では、18件で約160,000円である。
- 6 教育委員会と学校への情報提供・PRを行っていく。

議題（５）中央区役所温室効果ガス排出抑制実行計画の改定

委員からの意見等

- 1 総量から原単位による削減目標に改めるのか。
- 2 総量が増えても原単位が減るケース、あるいは、逆のケースもあるので、総量と原単位の両方用いる考え方もある。
- 3 ①エコオフィス活動の推進 ②設備等の適正管理 ③施設改修・設備更新 を取組内容としているが、施設管理マニュアルを活用した削減を目指すなら、③②①の順にするべきである。
- 4 自由化に伴う電力調達をどう考えるか。

- 5 CO2排出量の多い事業者とは契約しない自治体もある。事業者の実態（CO2排出量や再生可能エネルギーの導入量など）把握も必要になってくる。価格にとらわれずに事業者を選択するのも、環境への配慮として大切なことである。
- 6 回答5のような取組みは、本文中に記載されているか。
- 7 自然エネルギーの導入状況は、取組成果として、本文中に記載したほうがよい。

区の回答

- 1 人口増加やサービス充実により、想定以上の排出量が見込まれ、一人一人の取組みが反映されるよう、エネルギー消費原単位による削減を目標とした。
- 2 資料6「中央区一般廃棄物処理基本計画の中間報告」では、家庭ごみは原単位、事業系ごみは総量による削減をそれぞれ目標としている。
- 3 検討する。
- 4 基本的に入札となるので、価格優先となる。
- 5 23区内の区立小中学校等公共施設には、従来から清掃工場の排熱を利用した電力（東京エコサービス(株)）が供給されている。また、本区の施設では、太陽光などの自然エネルギーを導入するなど、できる限り環境に配慮した取組みを行ってきている。
- 6 自然エネルギーの導入状況は、参考資料のページに載せてある。
- 7 検討する。

議題（6）中央区一般廃棄物処理基本計画の中間報告

委員からの意見等

- 1 今年度中に公表されるのか。
- 2 10年計画での中間見直しとなるが、削減目標は達成できそうか。

区の回答

- 1 公表される。
- 2 家庭ごみは、ほぼ達成できる。事業系ごみは、事業所数・従業員数が増加傾向にあり、削減が進んでいないため、適正排出の徹底などが課題である。

議題（7）亀島川緑道の整備（資料7）

委員からの意見等

- 1 他に整備事例はあるか。
- 2 地域の反応はどうか。

区の回答

- 1 隅田川スーパー堤防のテラス整備、日本橋川の護岸緑化、朝潮運河のテラス整備などがある。
- 2 今回の整備も設計段階から地域の人や東京都が運営する「日本橋・亀島川流域連絡会」での意見を反映させており、とても好評を得ている。

以上